



東北復興イベントで自衛隊を紹介



自衛隊東京地方協力本部高円寺募集案内所（所長 金子3陸尉）は10月26日・27日の2日間、中野区役所周辺で行われた「2019東北復興大祭典なかの」において、中野区・杉並区家族会及び杉並区自衛官募集相談員の支援を受け、広報ブースを出展した。このイベントは東日本大震災で被災された地域への継続的な復興支援をともに、地域振興を推進することを目的に毎年開催されており、自衛隊のほか、警視庁・東京消防庁等も協力している。

広報ブースでは先般の台風に係る災害派遣活動の写真パネル展示や活動状況の映像を放映するとともに、軽装甲機動車や高機動車等、災害派遣においても活動した車両の展示には多くの来場者が興味を示し、ミニ制服等を試着した子供たちが偵察用オートバイに跨り記念撮影する傍ら、「今回の水害での自衛隊の活動に感謝します」との声も聞かれた。

また、会場に隣接する中野サンプラザ前で行なわれた陸上自衛隊第1音楽隊の演奏会には多くの観衆が足を止め、その音色に魅了されていた。

高円寺募集案内所は、今後も区民と自衛隊の懸け橋となる広報活動を積極的に実施していくとしている。

東京ラーメンショーに自衛隊が出店！？ ～大規模イベントで自衛隊をPR～



自衛隊東京地方協力本部（本部長 岸良陸将補）は、駒沢オリンピック公園で開催された「東京ラーメンショー2019」において、10月30日から11月4日までの6日間、広報活動を実施した。

「東京ラーメンショー」は日本各地の「ご当地ラーメン」が集結する全国でも最大規模の野外ラーメンイベントとして知られ、ラーメンを通じ「観光」「食育」「食文化」を考え、啓蒙するという目的で開催されており、今年は期間中延べ約32万人が来場する大規模イベントとなっている。

横一線に立ち並んだラーメン店の向かい側に展開した広報ブースでは、第1普通科連隊の軽装甲機動車や高機動車、偵察用オートバイを展示するとともに、VRゴーグル体験、制服等の試着コーナーを開設した。

会場ではお目当てのラーメン店の味に舌鼓を打った多くの来場者が、思いも寄らぬ場所に展示されていた自衛隊車両等に目を留めブースに立ち寄ると空挺降下や10式戦車の操縦等を隊員目線で疑似体験できるVRゴーグル体験では思わず両手を広げて降下のポーズを取ったり、360度周囲を見渡しながら驚きの声を上げる等、想像以上に臨場感ある映像に興奮した様子だった。また、防弾チョッキや鉄帽を装着した姿を写真に収めた女性は、「こんなに重いものを身に付けて行動するのですか」と驚きの声を上げ、先般発生した台風被害等に係る災害派遣活動を紹介した写真パネルを見た親子からは「自衛隊の行動を見ていると応援しています。がんばってください」との激励の声も寄せられた。

また、会場特設ステージでは東部方面音楽隊が演奏し、「パプリカ」や「東京ブギウギ」等の楽曲で観客と一体となりイベントを大いに盛り上げた。

東京地本は今後も都内各所で行われるイベントに参加し、防衛省・自衛隊に対する理解を深めてもらうため積極的に広報活動を実施していくとしている。

防災教育で高校生が「生き残るポーズ」を体験



自衛隊東京地方協力本部練馬地域事務所（所長 森田3陸尉）は11月6日、東京都立田柄高等学校3年生165名に対して、防災教育を実施した。

これは、練馬区に所在する田柄高等学校からの依頼により、「震災時における命を守るための知識」をテーマに講演したものである。

講演の冒頭、先般の台風19号に係る災害派遣において、被害情報の収集、人命救助活動及び行方不明者の捜索、給水・入浴等支援や道路整備等、自衛隊が行った活動の状況をスライド写真を用いて説明し、その後、内閣府ホームページに掲載されている「首都直下地震シミュレーション」の映像を通じ、震災に対する日頃からの備えの重要性を訴えた。

震災への対処要領については、東京地本北地域事務所長であり、防災士でもある佐野3陸佐が「授業中に震度7の地震が起きたら、あなたはどうしますか」等実際に遭遇し得る状況での様々な質問を生徒に問いかけ、豆知識を交えながら大地震が発生した際の着意事項をわかりやすく解説し、講演の最後には生徒全員が片膝立ちでかがみ、頭を両手で保護する「生き残るポーズ」を体験した。担当教諭からは「生徒たちが『生き残るポーズ』をしっかりと行っていた姿を見て真剣に取り組んでいると感じた」との感想が聞かれた。

練馬地域事務所では、今後も積極的に地域のニーズに応え、防衛省・自衛隊の活動に対する理解と関心を高めるとともに、防衛基盤の充実拡大を図っていくとしている。